



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

インターネットでも
ご覧いただけます。

http://ktib.geo.jp/jcp

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

ひろがる「難病見舞金制度」

北茨城市は県北で最初に実施

「難病患者見舞金制度」が県内各地ですすみ、現在までに44市町村中、34自治体で実施されています。今年度から実施を含む。本市では、共産党市議団が議会等で同制度の実現をねばり強く取り上げるなかで、県北では最初に04年度から実施されました。実施当初は年額1万円の見舞金支給でしたが、一昨年より1万5千円に増額されています。

県内の各自治体の支給額をみると、年額4万8千円(古河市、下妻市、東海村など)、年額3万6千円(水戸市、土浦市、つくば市、笠間市など)で、今年度から新たに実施される県北の日立市は年額2万円、常陸太田市は年額1万5千円、高萩市は年額1万円という状況で、各自治体でさまざまです。

共産党市議団は「本市においても支給額を他市なみに増額するよう要求すると同時に、県内の大半の自治体で同制度が実施されている状況を直視すれば、県の

制度として県も予算を支出して、高水準での県内一律支給をはかることも大事ではないか」と述べています。

市立図書館を訪ねて

日本共産党市議団は市の出先機関の視察の一環として、5月14日に市立図書館を訪ねました。

館長によれば「同図書館は開設して約20年になり、老朽化も見られる。蔵書数は約10万7千冊。毎年3千〜3千5百冊を購入している。購入費は年500万円。市民からリクエストされた書籍に200万円、定期購入雑誌などに

300万円で、それなりに市民の要求に答えていると思つ」と説明がありました。

また、党市議団が「この建物は、かつて市役所の分館となっており、市役所移転にともない、その後、何に使うか市当局も検討していた。その当時、市民要望のつよい図書館として利用すべきと提案したのはわが党である」と述べ、同時に「祝日の開館は市民の要望が、つよげ実現してほしい」と要望したのに対して、館長は「実施するには最低でもあと1人増員が必要」と応えました。

なお同館によると、最近市民によく読まれている本は、佐伯泰英の「時代小説」やお笑いコンビのメンバー・田村裕の「ホームレス中学生」、同じく人気芸人の劇団ひとりの『陰日向に咲く』などだそうです。

女性消防団に40名ちかい応募

かねて市が募集していた女性消防団員の説明会が、5月14、15日に説明会が開かれ、入団届けの受付がおこなわれました。

茨城県内では消防署の広域化・再編の動きの一方で、地域消防分団員が減少しています。また地域防災の取組みとして、住民の防災・救急意識の啓蒙などが求められています。

そうしたなかで、女性消

先週、「やす子議員、カツオじゃありませんよ」と声をかけられました。一瞬、何のことかわかりませんでした。すぐ気づいて、冷や汗が流れました。

話は変わりますが、北海道の内陸に位置する旭川市に生まれた私にとって、かつては魚といえばホッケか塩サケ、身欠きシソでしょつか。カツオもマグロも、そんなに食卓にのぼった記憶はありません。その後、東京に暮らしたときには、カツオといえばタタキが一般的でした。

「カツオ」の訂正に寄せて 鈴木やす子

相まって大変美味しく食べられるので、二度びっくりでした。さらに、そのまま一晩漬けておくと味もしみて、ご飯のおかずにもぴったりです。

新鮮な魚と自家産の野菜。地産地消がかなう街に住んでいることの幸せを感じます。ただし人前に出ることも多く、そんなときにはニンニク醤油はおあずけ。ちよっぴり残念です。

20数年前、北茨城市に住むようになって、カツオの刺身に会いました。そして、欠かせないのがニンニク醤油です。生ですりおろすので、辛いし、匂いもあります。ところが、カツオのとりみと

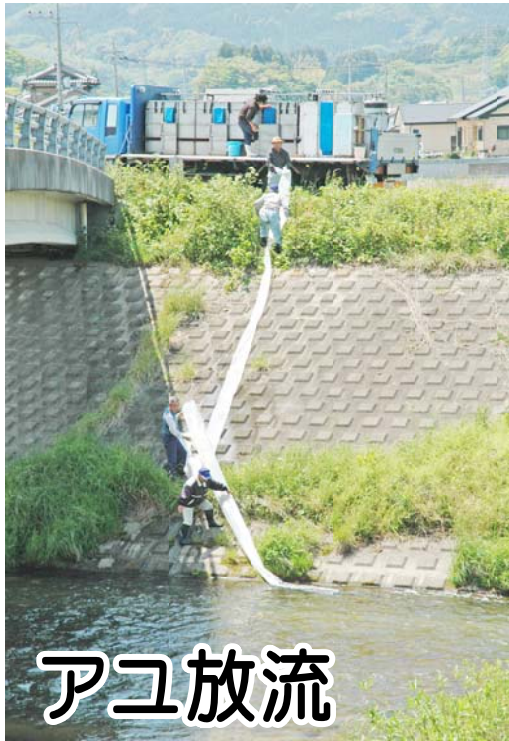
さて、じつは先週号の記事に誤りがありました。「よう・そるー周年」の記事中で、「1メートルルチかくもあるカツオ」と紹介しているのは、正しくはマグロでした。お詫びして訂正いたします。「目に青葉、山ホトトギス、初カツオ」という今の季節に免じてお許しください。

防団の組織化が全県で始まっています。県北では、大子町、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市に続き、北茨城市でもこの春に募集したものです。

関係者の熱心な取り組みで、定員20名のところ、40名近い応募がありました。現在、消防団の欠員が54名という現状もふまえ、応募者全員に、秋には辞令交付の予定です。これまでの消

防分団と同じ身分となり、活動内容は火災予防の屋外広報活動や、独居老人宅の防火指導、応急手当の指導などにあたります。

「災害などに遭遇したとき、いつも専門の救急隊員がいるわけではない。住民どうしお互い助け合える術を少しでも知り、そういう訓練や意識の向上の一助になれば」と自らも応募した鈴木やす子議員は話しています。



アユ放流

5月15日、磯原町大塚の大北川に架かる総寺院橋のたもと。放流されたアユは、600kg(約57000尾)とのこと。